

## 下仁田ジオパーク発 大地から考える自然のつながり

片山美雪・関谷友彦・鈴木英男（ジオパーク下仁田協議会）

キーワード：ジオパーク、環境教育、下仁田、

### 1. ジオパークとは

ジオパークとは、「地球・大地（ジオ：Geo）」と「公園（パーク：Park）」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球（ジオ）を学び、丸ごと楽しむことができる場所をいいます。

大地（ジオ）の上に広がる、動植物や生態系（エコ）の中で、私たち人（ヒト）は生活し、文化や産業などを築き、歴史を育んでいます。ジオパークでは、これらの「ジオ」「エコ」「ヒト」の3つの要素のつながりを楽しく知ることができます。

下仁田ジオパークは平成 23 年に日本ジオパークに認定されました。下仁田ジオパークのテーマは「日本列島の誕生をひもとく根無し山」です。根無し山（クリッペ）をはじめ、古い火山や中央構造線など様々な地質学的な遺産があります。こんなにも多くの地質現象が密集している地域は数少なく、これらを活かした教育や観光を進めています。

### 2. 大地からはじまる環境教育

植物、動物、水、農業など、わたしたちをとりまく環境のひとつに大地があります。ジオパークでは、地域にある地質学的遺産の価値を伝えるとともに、大地が作ってきた産業や文化、人々の暮らしを伝えていく活動をしています。

たとえば、下仁田の特産品である下仁田ネギの畑がある場所を考えてみましょう。下仁田の川や沢沿いのせまい平坦地は、ここにしかいいものが育たないと言われる下仁田ねぎの畑が広がっています。なぜ、下仁田の大地にねぎが適しているのかはまだ謎の一つです。でも、昔から人々が大地と暮らしていく中で、様々な工夫を凝らした結果下仁田ネギは有名になることができました。

このような大地と人々の暮らしのつながりに気づくことが、地球スケールで環境を理解し、考えることにつながっていくと考えています。

### 3. 下仁田ジオパークの見どころ

「根なし山（クリッペ）」

根なし山は山の山体部分と、基盤部分の岩石が異なる山です。山体部分は別の場所から移動してきたあと、その岩石が風化して現在の山の形になりました。根無し山形成時の激しい地殻変動によって地層が折れ曲がったり、上下がさかさまになっている様子や、基盤部分との境目の断層を観察することができます。

「中央構造線」

下仁田の町中を東西に走る大きな断層があります。これは中央構造線と呼ばれる日本最大の断層の一部です。下仁田では関東最大級の中央構造線の露頭を見ることができます。

### 「火山活動」

下仁田町の西方では、950 万年前と 700 万年前の 2 度にわたり、大地が大陥没しています。陥没内部では激しい火山活動があり、荒船山や、「じいとばあ」などの奇岩はこの頃に作られたものです。

## 4. 実施しているプログラム

### 「まちなか散策ツアー」

下仁田のまちなかにある見どころを徒歩で巡るツアーです。下仁田のまちなかには徒歩で移動できる範囲に、根無し山や中央構造線、2000 万年前に浅い海でできた地層などの地質学的な資源が多くあります。また、すぐ近くを流れる鑛川にはこんにやくの製粉を行っていた水車跡を見ることができ、地形と産業のつながりを考えるのに最適な場所です。そのほかにも、商店街の古い街並みや、町の文化財である諏訪神社など人々の暮らしの様子を見ることができます。まち歩きをしながらいまある下仁田の景色と、その下にある大地のつながりを体感することができるツアーです。



### 「川原の石探し」

ただ河原に落ちている石にも、その中にはたくさんの情報が含まれています。その情報は、地球の過去や地域の成り立ちを知る手掛かりとなります。しかし、なにも知らずに石を見るだけでは石の中の情報を引き出すことはできません。石の種類やでき方を学習し、石からわかる下仁田の成り立ちを知ることをこのプログラムの目的としています。参加者は、実際に石に触れながら、図鑑などを使って石の分類をし、分類した石の種類からどんなことがわかるのかをスタッフと一緒に考えます。



### 「粒度表キーホルダー作り」

地質調査で露頭の砂粒の大きさを調べる際に使う粒度表として使うことができるキーホルダーを作成しながら、地層のでき方を学びます。自分で砂をふるい分け、礫・砂・泥の違いを感じたり、実験を交えながら、砂粒の大きさから環境の変化を知る方法を学ぶことができます。

